NPO法人、「年度総会」を開催しました

5月12日、2011年度の事業報告・決算・役員選任を諮る総会を理事・監事を含む社員と法人会員の出席により開催しました。（委任状含め22名）。

冒頭に鈴木相談役より「かすかな光へ」上映取組みの到達レポートの研修交流。昨年度、NPO 法人化8年目、夕張実践以来13年目の活動は、月寒スクール・子ども館実践/日常活動・教育大学釧路校の持続的授業実習・普及活動と道民教集会・共育の森学園との連携などを報告。諸議題は2011年度方針・予算・役員人事を含め審議し全項目可決されました。

【役員などの体制】主に欠員補充。分掌は下記。

□相談役/鈴木秀一、□理事長/吉野正敏、□副理事長/田中傳右衛門、□監事/吉田　弘、斎藤　哲(新)

○理事：各立場でのアドバイザー、専務/大塚　勲

○新理事：鈴木かおり(←スタッフ)、中村政雄(元コープ)

＊顧問：田中　一、神山桂一、山田定市、大久保尚孝

【2012年度方針】～要約

…私達は、"市民立による人間(形成)教育・協同による学び舎づくり"を掲げ‥途中2003年に札幌に移転し「月寒スクール」を持続しながら、この3月には卒業生3名が巣立ちました…新年度を迎える在学生徒達の多くは、小学6年・中学1年時から在籍しており、3年目の成長にむけて思いを新たにしている所です。 残念ながら現教育制度は競争原理の弊害が指摘されながら、集権・画一主義による管理・加重付加が更に強まっています。全国12万人の不登校生徒への教育機会・成長保障も、未だ制度的にないという苛烈な実態…公教育現場の困難さ(の打開と)併せ、民主的な教育提案(暗記学力型ではなく、体験共同を柱に自らが学びの主体者として自立する、大人・行政はそれを援助する)を推進していくことを私達はさらに追求・提案します。

【テーマ別課題】 ●設立趣旨書に掲げる、「子ども達・青年の人間的な成長を援助する教育実践の探求普及活動」を、会員支援者・団体の皆さんと『協同連携』し展開します。実際には、"子ども達が主人公＝学びの主体"の教育、生徒・ﾌｽﾀｯﾌ・父母・市民が共に担う、"自由と協同の学び舎"つくりを推進します。

●総じて北海道発のユニークな社会実践（【市民立型教育運動】は道内、日本でもかなり稀少なものです）の火を持続しつつ、「次ステップ」をめざしていきます。

(—> 持続的社会を担う"人間教育・環境学習センター")

＊併せて、自然エネルギー導入の『エコハウス(スクール)』を時宜に添い拡充します～サテライト・エネルギー学校検討

【決算】～単年度超過分を繰越金でカバー

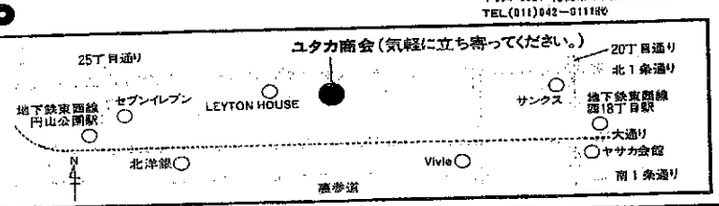
科目	予算	決算	備考
		予算比	
I　収入の部			
1　年会費収入	1,400,000	1,350,250	法人移行現、特別
2　寄付金（協賛金）	500,000	682,000	会費協賛
3　その他収入	710,000	531,000	HIT、ボーナス他
当期収入計	2,670,000	2,563,250	
臨時的収入	50,000	100,208	寄金(特別、会費)
経常収入合計	2,720,000	2,663,458	会費その他収入総額
前受金		1,024,080	H23会費前受け
II　支出の部			
1　事業費	450,000	379,087	電話218,019・保険132,016
2　管理費	2,200,000	2,050,075	(予算と事業費等相違)
(1)　職員活動	1,500,000	1,763,546	教育実践、科研ｽﾀｯﾌ
(2)　事務所賃借料	600,000	600,000	事務所5万ﾋﾞﾙ月額
(3)　他機公課		1,960	支払手数料
(4)　事務費	100,000	69,914	事務品ラベル刻印等 通信費&2400円は経費、他2
(5)　通信費	0	11,025	宅配費
(6)　交通・旅費	180,000	172,029	電車交通、旅費等
(7)　その他経費		44,601	ﾀﾞ相談、総会費等
3　固定資産		0	
4　予備費・積却	30,000	100,000	ｻｰﾊﾞｰ 補償10万
経常支出合計	2,870,000	3,135,142	職員動3万を吸収できず
経常収支差額	0	△471,684	
当期収支差額		△471,684	
前期繰越収支差額		826,184	
次期繰越収支差額		354,499	
(前受金)		1,024,080	

私たちも自由が丘を応援しています！

いちど見にきてみませんか。

Nordland®
株式会社ユタカ商会
〒064-0021 札幌市中央区北1条西22丁目
TEL(011)642-0111㈹

Fashion City Maruyama
ユタカのある円山の町。北海道神宮に代表される伝統的な感覚と、裏参道沿いに広がる最新のファションの感覚が調和する不思議な町です。



スタッフエッセー

月寒スクールの目指していること

鈴木 秀一

昨年の7月から準備をし、9月の試写会を皮切りに、「かすかな光へ」という教育学者大田堯先生の記録映画の上映運動が北海道で北海道民間教育研究団体連絡協議会を中心に行われました。これに北海道自由が丘学園も積極的に参加し、吉野理事長のご努力で、小樽と余市でも上映され、そのほか釧路、旭川、空知、日高、十勝、桧山といった地方や、札幌の北大はじめ教育大、北海学園大、札幌学院大、発寒南小、保問研、子育てネットワークなどの学校や団体での上映がなされ、全道で千人を越す人々がこの記録映画を観て、大きな感銘を受けたという感想が寄せられる成果をあげました。

この映画の監督、森康行氏は、この記録映画の前に、「夜間中学」という記録映画を2003年に作っています。この「夜間中学」は、子どもの頃に種々な理由で学校に行けなかった人たちのために自主的に作られた中学校で、東京をはじめ幾つかの地方自治体に作られています。東京の夜間中学に1年半通って作られたこの記録映画は、多くのことを教えてくれています。

この記録映画を観て、大田堯先生は、ほんものの教育がこの夜間中学にあると感じられたのでした。エリート大学、そこを目指すエリート高校、そこを目指す中学、小学校、これらの学校での学力競争中心の教育を、大田先生は新幹線の超特急路線と名づけ、夜間中学は各駅停車の鈍行汽車といい、いわば、夜間中学は、「みそっかす的存在」ともいうべき学校だろうと述べています。この夜間中学での教育が、どうして真の教育と言われるのでしょうか。

大田先生は、この夜間中学教育について4つの特徴をあげています。

① 学習を求める内発性：この学校にくる16歳から80歳の人たちは、誰もが自分の内なる必要によって学ぶことを求めて来ていること。

② 各駅停車：ひとりひとりのペースに合わせて授業がなされる。

③ 人と人の輪、人と人との絆の中で学ぶ：学びあうことで結び合う。結び合うことで自分を知る。教師と生徒が共に育つ。

④ 開かれた空間：競争が中心の、仲間を蹴落とすような閉じられた空間ではない。

このような四つの特徴は、じつは近代市民社会の成立に伴って作られてきた民主的な近代教育について、ルソーはじめ多くの思想家が、教育はこうあるべきだ、と考えてきた内容そのものと言ってよいものなのでした。市民社会が、資本の支配する国家という体制に整備されるにつれて、教育が富国強兵政策の道具になったり、大企業家や政治権力の後継者づくりの仕組みに変質したりさせられてきた結果、新幹線教育などが出現してきたわけです。

私たちは、戦後60年以上を経て、果たして真に民主主義の実現している社会を創り得たのか、戦争で日本人三百万人もの命を失い、アジアの人々二千万人もの命を奪い、そのような犠牲の上に得た日本の民主主義は、果たしてそれらの犠牲を無にしないもの足りえているのか、が問われているように思います。もし、まだ日本の民主主義が不十分なものならば、これからの世代にその不十分を正す力を育ててもらうしかありません。

そのためにも、夜間中学が示しているような特徴を、私たちのスクールも実現するように努めたいと思うのです。夜間中学が「みそっかす」ならば、月寒スクールは、やはり「みそっかす的」存在かも知れません。しかし、来ている子どもたちは、まさに、内発的な意志で来ているのであり、スタッフは、この子どもたちと「共に育つ」ことを目指しています。子どもたちのペースに合わせて、ひとりひとりの成長を援助しようと努力しています。だから、高額の寄付をしてくださった大田先生はじめ、多くの方々が物心両面で支援してくださっているのだろうと思われます。 このご支援に応えて努力をすることは、本当にやりがいのあることです。

注：これはNPO総会時の研修に紹介されたものに加筆して頂きました。参加者の理事からは、「戦後は各地でこの様な学校が多かった。今求められる教育に通ずるのでは‥」の感想がありました。